

タイムズ Times

Vol. 30

- KANTOH NEUROSURGICAL HOSPITAL - Public Relations Magazine

ふれあい看護体験

平成30年8月2日(木)7日(火)28日(火)の三日間、高校生を対象に当院にてふれあい看護体験が実施されました。

看護部、栄養課、リハビリテーション科の担当者により、血圧測定や病院食・治療食の試食、車椅子乗車体験、高齢者体験等を行いました。

学生は真剣に取り組みながらも当院スタッフとなごやかに看護体験が行われた様子でした。



体験後、修了証を受け取って、学生はとても喜んでおり、「今まで行った看護体験で1番楽しかった」「高齢者体験を経てお年寄りを大切にしなければと思いました」等の感想を頂きました。

今後の進路や高齢者との関わり方の参考になり充実した貴重なふれあい看護体験となりました。



TOPICS

- 血栓回収療法について
- 第21回日本臨床脳神経外科学会
- 第16回日本臨床医療福祉学会
- 第30回救急医療シンポジウム
- 西日本豪雨救援義援金
- ふれあい看護体験



第30回救急医療シンポジウム



ふれあい看護体験



第21回日本臨床脳神経外科学会



第16回日本臨床医療福祉学会

編・集・後・記

これから寒さに向かいますので、みなさん、風邪をひかないよう体調管理に気を付けて下さい。



血栓回収法について

当院では平成30年10月より、急性期脳梗塞患者に対し、血栓回収療法を行える体制を整えております。

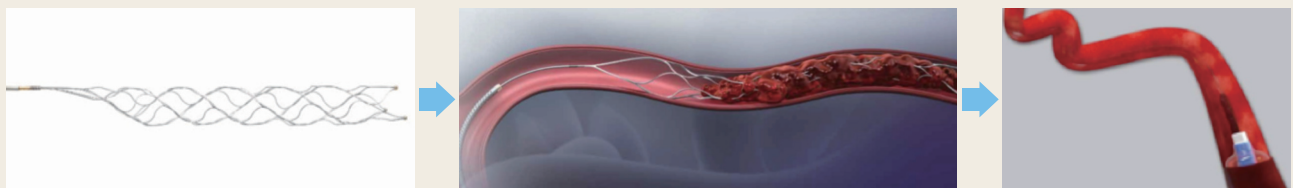
血栓回収療法ってなに？

マイクロカテーテルと呼ばれる細い管を血管の中に通して、脳内の血栓(血液の固まり)が詰まった部位まで到達させ、その後ステントという金属製の網目状の筒を血管の中に展開し血栓を捕らえて体外へと除去します。

血管の中から血栓を取り除くことで脳への血液の流れを回復させます。

脳の血管が急に血栓で詰まるような場合が多い急性期脳梗塞に対し、血栓溶解療法が効かなかったり、適応でない症例に行う治療です。時間(発症8時間以内)や血管の状態、脳梗塞症状の強さなどを考慮し、治療を行うか決定します。

当院では、24時間治療を行える体制を整えていますので、発症早期の脳梗塞が疑われた場合、是非ご連絡ください。24時間対応:048-521-3133



血栓除去デバイス(ステント)

ステントで詰まった血栓を捕捉する

捕捉したまま体外へ除去

第21回日本臨床脳神経外科学会

平成30年7月14日(土)・15日(日)に第21回日本臨床脳神経外科学会が石川県の金沢市で開催されました。今回は「脳外科における多職種協働医療の実現」がテーマとなっており、役割分担と連携、また働き方改革についてのシンポジウムの発表が数多くありました。

当院からは2つの演題「2種類の手術時手洗方法における細菌数の検証」「サイバーナイフ月間品質管理における省力化を目的とした評価値自動検証プログラムの運用検証」を発表しました。

多職種協働医療ということで、様々な業種の専門的な話を聞き、最新のトピックスを知ることが出来とても良い学びとなりました。

今回の学会では、興味のあるセッションが多く、時間の都合もあり観光に行く余裕はありませんでしたが、金沢駅の前には鼓門という高さ13.7メートルの立派な門ともなシドームというガラス張りの天井があり、世界で最も美しい駅の一つを見ることが出来ました。

また、院長先生からお寿司をご馳走になり、懇親会では海鮮類を中心とする様々な地元の美味しい食材を頂き、金沢芸妓も鑑賞することが出来とても充実した二日間を過ごすことが出来ました。

この学会で学んだ事を日々の業務に生かしていきたいと思えました。



学会会場前



懇親会



学会会場

第16回日本臨床医療福祉学会



平成30年9月6日(木)・7日(金)に第16回日本臨床医療福祉学会が東京で開催されました。今回のテーマは「臨床医療の社会福祉貢献」でした。

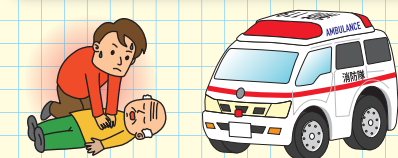
当院から、リハビリ科の2名が、「車椅子姿勢が崩れる要因の調査」と「トイレ動作における介助量の判定基準」の演題で発表しました。

今回の学会発表の経験を日々の業務に生かして、患者の更なる回復に繋がっていきたいと思えました。

第30回救急医療シンポジウム

平成30年9月10日(月)午後6:30より、ホテルガーデンパレスで第30回救急医療シンポジウムが開催されました。第1部では6演題、第2部では5演題の発表と熊谷市消防本部によるトリアージの扱いについての講演がありました。

今回、総務課から「救急搬送依頼における通話時間短縮の試み」について、発表をしました。他職種の医療従事者との関わりや患者への支援の取り組み、災害時等の対策の必要性など関心をもち貴重な経験ができました。



西日本豪雨救援義援金

平成30年7月に長崎、広島、京都等、西日本を中心とする集中豪雨災害への救援募金を募りました。

お寄せ頂いた募金は総額79,270円となり、読売新聞社を通じて被災地の復興支援に役立てられます。ご協力ありがとうございました。